

がんになっても  
生きやすい  
「社会」を  
つくるには？

サバイバーとサポーターたちが挑む社会改革

2023年12月9日(土) 13:30～16:30  
立教大学池袋キャンパス マキムホール2F M201 教室

「日本人の2人に1人が生涯でがんになる」とも言われる昨今、がんは誰にとっても身近な病気です。近年はがん医療の発展により、がん患者の生存率は改善しつつあり、がんと向き合いながら生きる人が増えています。とりわけ2000年代以降は「がんサバイバーシップ」に注目が集まり、がんと向き合いつつ「社会」で生きていくかが問われるようになりました。いまや、がんサバイバーやそのサポーターたちが「社会」に対して積極的に働きかけ、がんになっても生きやすい「社会」をつくろうと改革を試みる活動も見られます。今回は、この領域に先駆的に取り組んでこられた研究者と実践者の取り組みを共有することを通じて、がんになっても誰もが生きやすい「社会」とは、どうあればよいのかを展望する機会とします。

基調講演

**高橋 都氏** (NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事)  
岩手医科大学客員教授、東京慈恵会医科大学客員教授

実践報告

**長谷川 一男氏** (NPO 法人肺がん患者の会ワンステップ 理事長)

**上田 暢子氏** (一般社団法人ピアリング代表理事、株式会社リサ・サーナ代表取締役)

**月村 寛之氏** (LAVENDER RING 共同創始者、株式会社電通)

<申込締切>

12月7日(木) 正午 右のQRコードからお申込みください

※参加費無料 (学内、学外問わずどなたでもご参加ください)



## 登壇者プロフィール

### 高橋 都 (タカハシ・ミヤコ)

NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事、岩手医科大学客員教授、東京慈恵会医科大学客員教授

1984年岩手医科大学医学部卒業。一般内科医として都内医療機関に10年勤務後、東京大学大学院で国際保健学を専攻。博士(保健学)を取得。東京大学、獨協医科大学で社会医学系の教員として勤務。2013～2020年に国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援部長として研究や情報発信に取り組む。定年退職後、NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワークを設立。「学ぶ」「楽しむ」「発信する」を合言葉にして活動している。港区立がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」のアドバイザーとしても勤務。趣味は水遊び。シーカヤックやシュノーケリングを楽しむ。

### 長谷川 一男 (ハセガワ・カズオ)

NPO 法人肺がん患者の会ワンステップ 理事長

神奈川県在住。52歳。日本大学芸術学部卒業。肺がんステージ4。2010年に発病し、現在13年目。2015年に設立した肺がん患者の会ワンステップのビジョンは、肺がんの患者・家族の「生きる勇気」を支え、肺がんのない世界を目指すこと。活動には3つの柱があり「仲間を作る」「知って考える」「アドボカシー」。1カ月に1回のペースでおしゃべり会開催。HPとブログにて、様々なテーマで情報発信している。現在、日本肺癌学会ガイドライン委員、神奈川県がん教育協議会委員など。

### 上田 暢子 (ウエダ・ノブコ)

一般社団法人ピアリング代表理事、株式会社リサ・サーナ代表取締役

立教大学法学部、政策研究大学院大学修士課程修了。横浜市で市民活動・創業支援の分野で働く。自身の乳がん罹患をきっかけに2017年退職。女性がんサバイバーのためのSNSコミュニティとして日本最大の『ピアリング』、がん患者さん向けレシピサイト「カマエイド」を運営。がん経験者同士の支え合いコミュニケーションと学びの場創り、生活課題の調査研究などを行う。2022年横浜市男女共同参画貢献功労大賞受賞。企業・大学や自治体等とともに、がんサバイバーのQOLアップを目指す各種事業に取り組中。

### 月村 寛之 (ツキムラ・ヒロユキ)

LAVENDER RING 共同創始者、株式会社電通 BX クリエイティブ・センター グロースアーキテクト部部长

慶應義塾大学経済学部卒業。1990年より電通。総合飲料メーカーの担当などを経て2008年よりクリエイティブブティック「ナカハタ」社長、2013年より電通でスタートアップや公共プロジェクトなどに携わり、2017年に御園生泰明とLAVENDER RINGを創設した。「すべてのがんサバイバーに笑顔を」を目標に、NPO 法人キャンサーネットジャパン、資生堂、電通の有志で活動を展開している。